

東日本大震災を教訓として

**津波(*Tsunami*)の怖さを知り、
教訓を活かす**

都市環境・緑化グループ 石井 勇

はじめに

- 東日本大震災は、46億年の地球活動のなかでの自然活動であるが、**巨大地震**の脅威は人間の想像をはるかに超えた。
- 地震は阪神大震災で経験し、ある程度、関西に住む人間の記憶に残るが、**津波災害と原発事故**は我々の意識の中でも全く想定外であった。
- **津波(水害)の特徴と怖さを知り、教訓を活かし、伝える(情報発信と受信、伝承)**ことが重要。

関西の地震・津波被害想定

東海・東南海・南海地震、内陸直下型地震

- 上町断層地震が起きると **モクミツ** ワーストワンの大阪は東日本大震災の5倍のガレキ発生
- 川から津波があふれ大阪平野は3m水没し地下街、地下空間も水没
- 避難は高層ビルのみ
- 高層ビルも津波火災の真ただ中に孤立
- 関西空港は2m浸水
- 関西電力管内全停電
- 3連動地震が起きたら救援隊出動は困難

防災活動拠点は？自助のみ？

警報を信じて行動する

- ・警報は危険を知らせ身を守る時間を与えることに意味がある。

正確さより迅速さが重要

パニック防止には事前の周知と訓練

- ・たとえ誤報、過大であっても非難しない。
- ・とにかく現在の警報の内容を信じて、過去の経験から自分自身で行動を規制しない。

第二の戦後としての社会の問題点

災害復興、政府の財政危機、政治のゆらぎ、高齢化社会、少子化、経済復興、エネルギー危機、食料自給率、環境問題、原発事故処理

おわりに

公に期待すること

- ・政府の危機管理による防災拠点整備(縦割NO)
- ・関西広域連合による支援・活動拠点の整備

(自治体の責任の協力体制)

ハザードマップの整備、周知と対応、マニュアルと訓練
大量避難策の策定(原発の問題)

個人で考えること

物的被害はともかくとして、生きるために何が必要か？
犠牲者の死を無駄にしないために教訓を活かす

情報入手方法と避難の訓練

自助による減災

この一年の様々な情報を教訓として活かす
ことが犠牲者への鎮魂となる。

個人の意識の改革

持続可能な暮らし

暮らしの脱所有化

幸せの脱物質化

人生の脱貨幣化

自分を小さくして構造改革

枝廣淳子著「エネルギー危機からの脱出」より

豊かさはポケットにではなく心にある